

早稲田大学 図書館紀要

第 46 号



保管と廃棄

浦川 道太郎

図書館の主要な機能が、利用者の閲覧・貸出に依じるための図書の収集・保管にあることはいうまでもない。しかし、現在の図書館には、利用に供する機会全くない図書が大量に保管されている。いわゆる「重複図書」である。これは、保管すべき本から保管場所を奪い、また、管理のために図書館員の本来の業務の時間を奪うものであって、図書館にとって無駄な存在というよりは、有害な存在というべきものである。

図書館は、これまで、図書の収集・保管について多くの知識を蓄えてきたが、廃棄・処分についての知識は十分に持ち合わせていない。図書の廃棄・処分は、方法を誤れば、重要なものを永久に失う結果となるために慎重さが求められるよう。地球環境保全のために廃棄物処理の科学的研究の必要性が強調されているが、図書館でも、良好な環境を保全するために、図書の廃棄・処分のための「科学的方法」を早急に研究しなければならない。

1999 年 3 月